

## 今年のキーワードは「前進」

滋賀銀行は、毎年、しがぎんグループ全員の気合を揃えるキーワードを定め、営業推進に取り組んでおります。そして今年、私の頭取就任後、初めてのキーワードを「前進」といたしました。厳しい経済金融環境において、逆境のときこそ、まさにチャンスととらえ、地域やお取引先との持続的成長を目指して、「ニュービジネス」「アジアビジネス」「環境ビジネス」という3つの切り口を、一層活用した取り組みを展開してまいります。

「前進」という言葉に込めた思いは、大きく分けて3つあります。

- ①全役職員が心を一つにして「全身全霊」を傾注
- ②良心に恥じない、道徳にかなった「善心」を忘れることなく
- ③順を追って一步一步進む「漸進」の気概を発揮する

経済情勢は今、未曾有の金融危機に伴う景気減速の中にあり、厳しい環境にありますが、決してあわてず、また立ち止まることなく、地道にコツコツと歩み、成果を積み上げていくとの決意も込めております。

全役職員一人ひとりの「前進」がしがぎんグループ全体の「前進」となり、さらに地域社会やお取引先の「前進」、地域環境保全の「前進」へと結びつけていきたいと考えます。

# 前進

取締役頭取 大道良夫

# 「共存共栄」実現のために 私たちがめざすもの

Working together  
for mutual prosperity.



## 「共存共栄」に向けた「3つのブランド戦略」

当行は、「銀行経営の近代化」に向け「自己責任原則」による「独自経営」の展開に、積極的に取り組んでまいりました。具体的には、地域経済、そして地球環境との「共存共栄」を実現するため、①「知恵と親切のしがぎん」、②「アジアに強いしがぎん」、③「CSRのしがぎん」の3つのブランド戦略を展開しております。

### (1) 「知恵と親切のしがぎん」

「3つのブランド戦略」の1番目は「知恵と親切のしがぎん」です。

当行では、充実した店舗網、先進的なITインフラという営業基盤に立ち、FP資格取得者による「課題解決（ソリューション）」型の提案活動を展開しています。具体的には、金融資産運用や相続対策などを提案する「個人FP」活動、ニュービジネス支援、事業承継対策、M&Aなどを提案する「法人FP」活動に積極的に取り組んでいます。とくに昨年秋以降の急激な景気減速の局面にあわせ、2009年2月「法人推進グループ」に「ソリューション営業グループ」を一体化し、タイムリーにご提案や商品提供ができる体制を整えました。

また2007年3月に承認を受けた「バーゼルⅡ」での「**基礎的内部格付手法**」（通称「FIRB」）により、「格付」を当行とお取引先とを繋ぐコミュニケーション・ツールとして活用した「**しがぎん格付コミュニケーションサービス**」（P21参照）の提供に注力しています。運用開始（2007年8月）から2009年3月までの間に、1,248社に対してのべ1,498回のサービスを実施しました。単なる分析結果をお伝えするだけでなく、銀行とお取引先が経営課題を共有化し、今後の経営方針や経営戦略策定に真正面から取り組むことで、課題解決にお役立ていただいております。現在の厳しい経済環境の中で、お取引先の事業継続やさらなる発展に結びつけていただくために、地域金融機関の使命として積極的に展開してまいります。

### (2) 「アジアに強いしがぎん」

「3つのブランド戦略」の2番目は「アジアに強いしがぎん」です。

近畿地銀で唯一の海外拠点（香港支店）を有する当行の強みを活かし、お取引先のアジア進出ニーズやアジアビジネスへの取り組みに、積極的なサポートを行っています。

2008年9月に**香港支店**が開設15周年、同12月に**上海駐在員事務所**が開設5周年を迎え、それぞれ現地で「お取引先さまの集い」を開催しました。同12月には、上海に拠点を有する地方銀行12行と「上海ビジネス商談会2008」を開催するとともに、製造業の集積地として注目される天津市や発展の著しい湖南省長沙市を視察する「しがぎん中国ミッション」も実施しました。

あわせて2009年1月、証券国際部を「国際部」と「市場金融部」の2つに発展的に分割

しました。新生「国際部」内の「アジアデスク」と各支店、海外拠点の香港支店、上海駐在員事務所に加え、中国(天津)とタイ(バンコク)などに派遣しているトレーニー(研修生)を結ぶ強力なネットワークを構築し、お取引先のニーズが一層高まるアジア地域への進出を支援するとともに、国内外でのコラボレーションやビジネスマッチングなどに取り組み、アジアビジネスの展開をサポートしております。

### (3) 「CSRのしがぎん」

「3つのブランド戦略」の3番目は環境を主軸とする「CSRのしがぎん」です。

2009年6月、2020年までの温室効果ガス排出削減目標「15%減(05年対比)」を政府が発表するなど、地球温暖化防止に向けた取り組みはますます重要となっていますが、当行は環境省が創設した「エコ・ファースト制度」において、2008年7月に金融業界初の「エコ・ファースト企業」として認定を受け、「環境経営」を一層推し進めています。

新たな環境対応型金融商品として、2008年度にはカーボンオフセット定期預金「未来の種」と事業者向け環境配慮型融資「未来の芽」を発売、多くのお取引先に活用いただき、好評を得ました。預金と融資という銀行本来の業務(お金の流れ)に、温室効果ガス排出削減を組み込んだもので、当行独自の「環境金融」の実践の一つです。

加えて、中小企業による環境保全対策を支援するために、「国内クレジット制度」に基づく温室効果ガス排出削減事業(P47参照)にも取り組んでいます。同制度の事業に取り組むことで、地元での排出権を取得し、今後地域経済の活性化と地球規模での温暖化防止の両立に貢献できる取り組みであると考えております。

さらに、地球温暖化防止とあわせ、生物多様性の保全も喫緊の課題と捉え、取り組みを行っています。「しがぎんエコプラス定期」(P48参照)では、ダイレクトチャネルの活用による申込用紙紙資源節約相当分(1回の預入ごとに7円)を積立し、子どもたちの環境学習の場となる「学校ビオトープ」づくりの資金としています。2009年度も滋賀県内の3つの小学校に合計104万円を寄贈。これで県内の小学校13校の「学校ビオトープ」づくりをお手伝いしたことになります。あわせて琵琶湖の固有種である「ニゴロブナ」保護を目的とした「カーボンニュートラルローン未来よし」(P49参照)の拠出金により、「ニゴロブナ」を放流しており、放流累計は6万匹にのぼります。

## 「成長マーケットへの戦略的進出」「特化型店舗の設置」

地方銀行は地域あつての銀行です。当行は、滋賀県内はもとより、戦前から京都、大阪、戦後まもなくには東京、名古屋、大垣、上野に営業拠点を築き、広域地銀として展開してまいりました。2007年の新名神高速道路開通により、大阪から東海地域の経済交流が一段と活発となり、中心に位置する滋賀県に本拠を置く、当行へのお客さまのご期待は一層強くなっております。

本年度は、「新世紀第3次長期経営計画」の最終年度であり、計画の基本戦略である「成長マーケットへの戦略的進出」「特化型店舗の設置」を一層推し進めてまいります。

具体的には、昨年、京都南部地域の2つめの拠点として「宇治支店」を開設、順調に業績拡大しており、お取引先からも地元の金融機関として歓迎いただいております。「大阪北法人営業部（梅田支店内）」と「三重法人営業部（土山支店内）」の業績も順調に推移し、早期の支店化も視野にいれ、マーケット特性に応じた戦略的な展開を図ってまいります。

さらに2009年5月、成長著しいJR南草津駅西口に、当行初の個人特化型店舗「南草津パーソナル出張所」を開設しました。同出張所は個人のお客さまのニーズに特化し、高い資産運用ノウハウと設備を駆使して、休日の相談やセミナーを実施出来る特化型店舗です。2009年度中には、草津駅周辺にもパーソナル出張所を開設する予定であり、多様化する個人のお客さまのニーズにお応えするため、店舗機能を充実してまいります。

And, hereafter.

## 人材育成と活用

人材育成と環境のシンボルタワーである「しがぎん浜町研修センター」（P47参照）が2009年2月に完成しました。新研修センターは、当行創立70周年（2003年10月）の記念事業として計画したもので、「人（研修）」「環境（エコ）」「健康（アメニティ・リラクゼーション）」を基本コンセプトに建築しました。人材育成は企業にとって普遍的なテーマであり、経営環境が厳しい今こそが、人材育成の最大のチャンスととらえ、新研修センターを最大限に活用し、お取引先から高い信頼を得ることのできる人材の育成に注力してまいります。

あわせて、“少子高齢化”“グローバル化”等の社会環境の変化に伴い、「女性の活躍推進」に向けた取り組みも、銀行にとって大きな課題と考えています。当行では職員の57%を女性が占めており、企業活力向上のため、女性の活躍に大いに期待しています。

当行では、2006年12月に「女性活躍推進委員会」を設置し、①家事や育児に向けた支援制度、②女性活躍に向けた風土づくり、③女性の職務開発及び登用—の3つの観

点から取り組みを進め、多くの制度を充実してまいりました。今後も、「女性の活躍推進」に向けた取り組みを一層充実し、その実をあげることで、CSR憲章にうたった「役員との共存共栄」を進展させ、しがぎんグループの結束を強化して、地域社会、お取引先との絆を深めてまいります。

---

## 環境と経済の両立に向けて

---

2008年秋以降の未曾有の金融危機に伴う景気減速の中で、不況脱出に向けた新しい展開の切り口は、まさに「環境ビジネス」であると考えます。当行では「環境経営」「環境金融」の機能を最大限に発揮し、「環境ビジネス」を不況脱出のテコとするだけでなく、今後の成長の中核に育て上げることで、環境と経済の両立の実現を目指してまいり所存です。

本年度も環境に特化した商談と交流の場を提供する「しがぎんエコビジネスマッチングフェア2009」（P41参照）を6月に開催いたしました。当日は、県内外から120社・団体のご出展と2,600人を超えるご来場をいただき、800件以上の商談が行われました。ブースの前で熱心に商品説明や商談を行われる姿や来場された皆さまのご感想に、「環境ビジネス」の展開に向けた金融機関への期待の高まりと責任を改めて認識するとともに、なお一層の支援体制強化を決意しました。

加えて、本年度で10周年を迎えた「サタデー起業塾」（P41参照）も「環境ビジネス」に特化した「エコビジネスフォーラム」として、「産学官・金（金融）」の連携により、新しい「環境ビジネス」の開発や発掘に取り組んでまいります。

当行では「環境」に対するノウハウはもちろんのこと、「知恵と親切」で培ったニュービジネスやビジネスマッチング等のノウハウも活用し、「環境ビジネス」の育成に真正面から取り組んでまいりました。今後はもう一つのブランドである「アジアに強いしがぎん」のノウハウも結集し、お取引先の「環境ビジネス」を世界に向けて発信していきたいと考えます。

当行へのなお一層のご理解、ご支援をお願い申し上げます。